

中国の大学の IT 教育事情

江見圭司[†]

中国の大学の情報教育は日本とは事情が大きく異なっている。

Computer and Education at Colleges in China

Keiji Emi[†]

There is a difference in computer education at colleges between China and Japan.

1. 情報教育全般

1.1 実習室

筆者の提携校の福建師範大学や天津科技大学などで確かめたが以下の違いがある。

- ・ファイルサーバは存在せず、USB メモリに成果物は保存する。
- ・PC を再起動するとデータはリフレッシュされて、常にリカバリーされながら起動する。
- ・プリンタは存在しない。
- ・実習時間中に遊ぶ学生が多いため、インターネットのアクセスには制限が大きい。
- ・Windows 上で Virtual PC を使用して、Linux や Windows Server の実習を行う。

これらの特徴から、日本での実習室を利用するときよりも制限が多い。

- ・USB メモリ感染タイプのコンピュータウイルスに感染しやすい。
- ・ネットアクセスの制限があるので、教材の配布や課題の提出が難しい。また USB メモリで持参して教卓の PC に提出させるとウイルスに感染する恐れがある。
- ・Virtual PC を使用では成果物がどこへも残せないため操作教育のみになる。

[†] 江見圭司 京都情報大学院大学
The Kyoto College of Graduate Studies for Informatics

1.2 教科内容

中国の大学の教科書は基本的に、国家によって出版されているもので、内容は充実していて安価である。マイクロソフト社やアドビ社などのソフトウェアの使い方、プログラミング言語の習得に力点が置かれている。

1.3 高校までの学習内容

中国の高校（高中という）までの教育の特徴を挙げておく。

- ・福建省では外国語は英語が必修であるが、北の方は英語または日本語になる。
 - ・高校までの数学のレベルは日本よりも高いが、身につけていない。
 - ・高校までの情報教育は省にゆだねられており、内容の地域差が大きいようである。
- 以上の前提条件を踏まえて授業の準備をするとよい。特に英語を全く学習していない学生が存在する地域では、綴りの入力が遅いので、授業の進行は大変難しい。

2. 中国人の特徴

2.1 ウェブサイト

中国では、ウェブサイト開設には制限が多く、学生は開設することがほぼ不可能である。しかし現存するウェブサイトには非公式サイトが多い。例えばプリンタドライバを検索すると、プリンタメーカー以外に私的にプリンタドライバを配布しているサイトがあり、学生には公式サイトが存在を意識させることが大変難しい状況にある。

2.2 中国人の意識

中国では「お友達意識」が強い。SNS では、日本では 50~60 人のつながりであるが、中国では 200~300 人ぐらいが普通であるようだ。そしてお友達は家族みたいなものなので、ものの貸し借りの敷居は低い。「君のものは僕のもの。僕のは君のもの」という意識であるようだ。このことが理解できれば、レポートのカンニングが発生しやすいこと、違法コピーが横行することなどが何となく見えてくる。つまり、個人や私的所有権という概念がきわめて薄いために発生する問題である。

3. 最後に

当日の発表では、本稿では述べていない内容を詳細に述べる予定である。